

# 色付き瓶 人工砂に

ちばの元気企業

## ガラスリソーシング (銚子市)

不要となった色付きガラス瓶や陶磁器類を、独自の技術を用いて本社工場(銚子市)で安全、無害な人工砂に変えリサイクルしている。成田工場(成田市)では空き缶やペットボトルが混ざった形で回収される「混合容器」のリサイクル事業を実施しており、今年2月にはペットボトルのラベルを機械で剥がして洗浄、プレスする新たな棟が完成した。



本社工場で生産している人工砂=銚子市

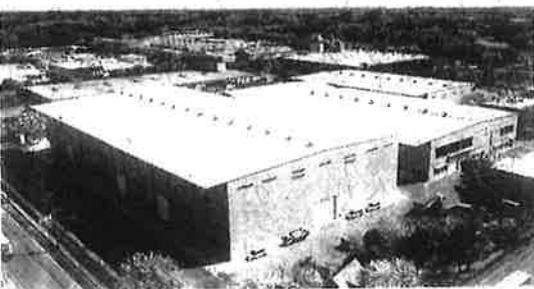
憲一会長(70)はこれを知り、資源化を図るべく1998年、同社を設立した。ガラスを碎き、触っても

手が切れない、手に刺さらない安全な人工砂を開発するとともに、本社工場で処理を始めた。透水性が高い

## ペットボトル再生も推進

人工砂は土木資材として販売しており、地盤改良材として活用されている。

同社は現在、1都12県の約170市町村から色付きガラス瓶を受け入れている。同社と同じ設備を使用している全国の業務提携先を含めると、色付きガラス瓶の4割ほどを処理していることになる。



成田工場に完成したC棟(手前)成田市(ガラスリソーシング提供)

トボトルを飲料メーカーなどから回収し、分別、プレスして資源化している。今年2月、成田工場に完成したC棟では、月1万トのペットボトルを処理している。機械でラベルを剥がし洗浄してからプレスすることで付加価値を高めており、ペットボトルへの再生を推進する狙いもある。

もう一つの柱となっているのが、成田工場の混合容器リサイクル事業。ごみ箱に捨てられた空き缶やペット

新型コロナウイルス感染症防止のため、フェースシールドやマスクの着用も徹底している。赤坂修社長(66)は「今後は可能な限り、廃棄物の処理を自社で完結させていきたい。また、これまでの経験を生かし、コンサルタント業にも力を入れたい」と意気込んだ。